

## 第250回 番組審議会

1. 日 時 平成28年3月8日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 10名  
出席委員数 8名 (欠席委員数 2名)

### ○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)  
九萬原 敏巳 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広  
加藤 裕一  
久慈 浩介  
斎藤 純  
菅原 正二  
吉田 浩次

### ○ 会社側出席者 (5名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)  
小原 忍 (取締役副社長)  
藤原 銀司 (常務取締役報道局長)  
前田 秀男 (取締役技術局長)  
工藤 浩 (取締役営業局長)

### ○ 事務局 佐々木 久仁子

#### 4. 『BSフジ これまでの歩みと今後の展望』

(株)ビーエスフジ 常務取締役 岸本 一朗 様

#### 5. 議 事 概 要

今回は、(株)ビーエスフジの岸本一朗常務が「BSフジこれまでの歩みと今後の展望」と題して講演しました。議事の概要は、以下の通りです。

##### ●(株)ビーエスフジ常務取締役岸本一朗様のお話

- ・BSフジは、2000年12月に開局し昨年12月で開局15年を迎えた。この15年を一言で言うなら「苦闘と希望の15年」だった。
- ・2006年に単年度黒字になったが、その後も経営的には苦しい時期が続いた。その理由は、BSデジタル放送を見られる環境が整っていなかったことに尽きる。
- ・追い風が吹くのは2011年の地上波完全デジタル化。「ゆっくり、じっくり見られる大人のテレビ」が定着しつつあり、地上波に飽き足らなくなった成熟した大人の支持を得ることができた。そのシンボリックな番組は月曜から金曜の午後8時から放送している「BSフジLIVE プライムニュース」。
- ・今後の展望は、ポスト「プライムニュース」のコンテンツ企画、開発制作。最大の課題は、世帯普及率を更に伸ばすこと。BS民放8局が無料放送であることを知らない人がいると分析しており、視聴可能な視聴者に視聴を促す方を業界全体で検討している。4K対策も課題のひとつ。2020年の東京オリンピック、パラリンピックの開催と大いに関係がある。4Kコンテンツが主流となる時代が近い将来必ず来ることはわかっており4Kへの投資はマストだと思っている。
- ・地上波FNS各局との連携は非常に重要。めんこいテレビが岩手ならではの価値あるローカルコンテンツをBSフジというメディアを使って全国発信するという1対1の関係だけ

ではなく例えば平泉の金色堂など全国各地の世界遺産の4KコンテンツをFNS系列局の有志連合とBSフジが共同で制作放送して流すという新しい枠組みもありうるのではないか。

- ・さらにローカル局とコラボして制作したコンテンツは、日本だけではなく「クールジャパンコンテンツ」としてグローバルに発信し、日本を元気に出来れば良いと考えている。

#### ●出席した委員からの意見

- ・ローカル局とのコラボを実現し、めんこいテレビ制作の被災地関連番組「響け！復興の槌音」等を全国発信してほしい。
- ・鮮明度をどんどん上げていけばいいというものではなく、返って疲れるということもある。若い人を呼び込むには、PC・スマホにはない、テレビしかない臨場感を出していけば面白いのではないか。

#### 6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

#### 7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成28年3月9日（水）産経新聞 東北版

※平成28年3月19日（土）午前4時12分から4時15分まで

「めんこいテレビ番審りポート」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

#### 8. その他の参考事項

特になし

\*次回は、平成28年4月12日(火)12時より 当会場にて開催予定です。